9/16 赤旗

戦争か平和かの綱引きに勝とう

全労連女性部が大会

全労連女性部は12、13の両日、第26回定期大会を東京都内で開きました。安倍政権の「戦争する国」づくりと労働法制改悪ストップ、憲法を平和・命・くらしにいかすなどの運動方針を採択しました。

「戦争法案絶対反対」「安倍政権は今すぐ退陣」とプラカードを掲げてコールしました＝13日、東京都内

長尾ゆり女性部長はあいさつで、戦争法案は憲法違反だと国民が見抜いており、今大会は「戦争法案反対の大きなうねりの中で開かれた」と強調。「被害にあうことも加害者になることも拒否したい。戦争か平和かの激しい綱引きに私たちが勝利しよう」と訴えました。

運動方針では▽戦争法案の成立を阻止し、憲法をくらしに生かす▽労働法制の改悪に反対し、男女とも仕事と生活を両立させ、人間らしく働くルールを確立する▽女性の地位を向上させる―などをすすめるとしています。

討論では、戦争法案を廃案に追い込む発言が相次ぎました。全教の代表は、「みんなの役に立てると思った」と自衛隊員になった教え子の身を案じ、再び戦場に送らない決意を表明。年金裁判をたたかう全日本年金者組合の代表は、「安心できる年金制度と平和な未来を」と街頭で訴えていると報告。京都の代表は、憲法手帳と「自由と平和のための京大有志の会」声明文の「子ども語訳」を配布していると紹介しました。

生協労連や広島の代表は、労働時間の上限規制や均等待遇実現の重要性を強調。日本医労連の代表は増員闘争にさらに力を入れたいと語りました。

東日本大震災をめぐっては、宮城の代表が「いつまでも甘えるな」など風当たりもあるなかで、炊き出し相談会をはじめ被災者に寄り添ったとりくみを紹介。福島の代表は「復興の最大の障害は安倍政権だ」とのべ、原発ゼロを訴えました。

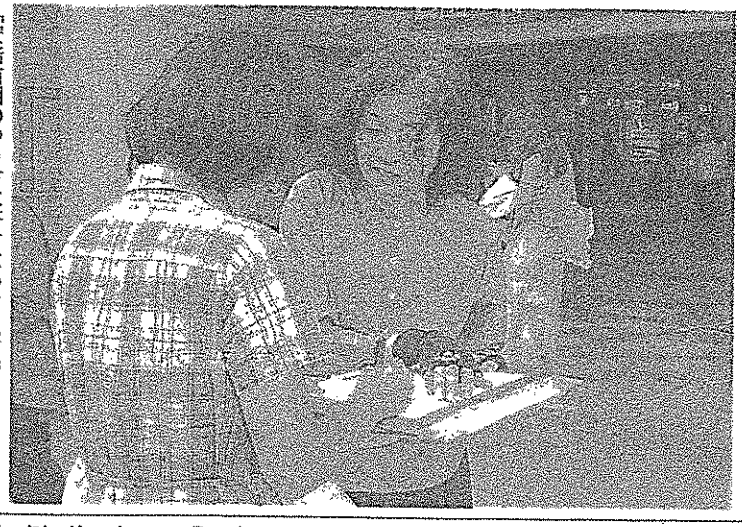
日本婦人団体連合会の柴田真佐子会長、日本共産党の田村智子参院議員が来賓あいさつしました。

選出された役員は次の通り（敬称略、いずれも再任）。▽部長＝長尾ゆり▽副部長＝角田季代子、橋本恵美子、水谷文、山本乃里子▽事務局長＝大西玲子

こんな法案 絶対止める

総がかり行動実行委 いっせい宣伝

戦争法案をめぐり与党が地方公聴会（16日）直後の強行採決も狙うなど緊迫する情勢のなか、「総がかり行動実行委員会」は15日、廃案を求める全国いっせい街頭宣伝を行いました。実行委員会の構成団体のひとつ、憲法共同センターは東京都内6カ所で宣伝しました。



「安倍首相のやり方は許せない」と署名する女性（左）＝15日、東京都文京区

文京区の茗荷谷駅前では「この子を戦争には送りたくない」という2歳の子を連れた母親、昼休みのサラリーマンなどが次々と署名に応えました。

新日本婦人の会の笠井貴美代会長は、14日夜の国会正門前での大集会で「4万5千人の怒りのコールで包まれた」と述べ、「一人ひとりが『戦争はいやだ』の意思をしっかりしめそう」と呼びかけました。

農民連女性部の藤原麻子事務局長は、高校生の息子に自衛隊から勧誘文書が届いたと紹介し、「一人の女性として、母親として、人を殺し、殺されるような戦場に息子を送りたくない。必ず廃案に」と訴えました。

埼玉県和光市の女性（71）は「国民の声を聞かない首相の姿勢はまるで独裁者です。こんな法案は絶対にとめなくてはなりません」と語り署名しました。

この日、都内各地の行動に日本共産党の池内さおり、大平喜信、清水忠史、真島省三、宮本徹、本村伸子の各衆院議員が参加し、訴えました。

安保法案成立阻止 連合が緊急行動

連合は15日、安保法案成立阻止を掲げて緊急国会前行動をおこないました。

神津里季生事務局長は、「大きな危機感に包まれている。集まった方々は、70年間築き守ってきた国のあり方を根底から覆そうとしていることに怒り心頭だと思う」と強調。「異常な国会だ。派遣法改定も成立した。天下の悪法だ。安保法案も、今週にも強行採決しようとしているが、最後まで対峙（たいじ）する」と訴えました。